

実績報告書

		大阪府泉佐野市住吉町29番2		ケイエス冷凍食品株式会社
届出者	住所		氏名	代表取締役 齋田 直樹
特定事業者の主たる業種		9食料品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		冷凍食品（冷凍ミートボール類）を主体に生産		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	6,416 t-CO ₂	6,175 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	6,863 t-CO ₂	6,631 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	3.0 %	6.6 %	2.8 %
削減率(平準化補正ベース)		-	%	6.4 %	2.5 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(生産量)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>社用車はハイブリッド車両や低燃費車両に順次移行中。事務所や工場等照明器具更新時には、LED器具や高効率器具へ更新中。一部人感センサー等設置しエネルギー使用量削減に取り組み実施。</p> <p>また、生産ライン冷凍機台数制御計4機中3機を運用開始。主に3機中2機は年間通じ制御停止出来るが1機は中間期のみ制御停止で運用している。その他生産機器では高効率モーターへの更新を実施している。</p>
<p>平成28年以降生産設備省人化で、生産機器のロボット化や包装ライン自動梱包機導入により電力使用量増加。また、一部の生産時間延長等で共有部分の照明・工場給排気ファン・ボイラー・給湯機運転が延長し悪化した。</p>

(2) 推進体制

社内で社長以下役員クラスを含め経営会議（温暖化防止、省エネを含む）を実施の中で進捗状況の報告している。
また、ISO14001を2011年12月に認証取得以降、毎月の工場環境会議でエネルギー使用原単位ベース削減目標を掲げて推進している。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	泉佐野工場	コード (1114) 蒸気トラップの 整備、保温	蒸気トラップの整備、ドレン回収ラインの整備、保温し熱ロス削減。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
2	レ GHG排出	泉佐野工場	コード (1218) 照明器具間引き	工場包装エリア、事務棟照明器具の間引きと消灯（約50灯）、高効率化機器更新。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
3	レ GHG排出	泉佐野工場	コード (1225) 物流倉庫デマ ンド制御	物流倉庫デマンド制御システムの変更により不要な運転を制御継続。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
4	レ GHG排出	泉佐野工場	コード (1112) エネルギー使用 量把握測定機器 推進	工場使用エネルギー、事務棟電力の把握する為測定機器の推進、設置。管理標準書作成。流量計、電力量計設置準備中。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
5	レ GHG排出	泉佐野工場	コード (1114) 生産設備冷凍機 台数制御	生産設備冷凍機の台数装置を設置し、冬季期間の制御を行う。46,464Kwh/年（22Kwh×4台×8時間×22日稼働×3ヵ月）	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	全事業所	コード (2123) エコドライブ推 進	アイドリングストップ推進継続中。 経営会議、工場環境会議で啓蒙する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
2	レ GHG排出	全事業所	コード (2121) 低燃費車の導入	ハイブリッド車両へ随時移行。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				

(4) その他の抑制対策

実績報告書

		大阪市中央区城見2-1-5 ケイ・オブティコムビル		株式会社ケイ・オブティコム 代表取締役社長 荒木 誠
届出者		住所	氏名	
特定事業者の主たる業種			37通信業	
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		<ul style="list-style-type: none"> ・電気通信事業 ・有線一般放送事業 ・小売電気事業 ・電気通信および有線一般放送に関する機械器具および設備の設計、設置、販売、賃貸および保守管理 <p>◆設立 昭和63年4月2日 本金330億円</p> <p style="text-align: right;">◆資</p>		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間					
2015年	4月	1日	～	2018年	3月31日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	32,595 t-CO ₂	30,225 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	37,190 t-CO ₂	34,488 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017年度)	第1年度 (2015年度)	第2年度 (2016年度)	第3年度 (2017年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	3.2%	14.1%	25.4%
削減率(平準化補正ベース)		-	%	14.3%	25.4%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(利用顧客数)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

利用顧客数の増加に伴い各事業所の通信設備を増設したが、回線収容の整理および旧型設備の停止・撤去、省エネ型空調設備への更新などを進めることにより、原単位ベースで基準年度比30.1%削減できた。

(2) 推進体制

<p>・省エネ推進WGを設置し、エネルギー使用量や省エネの取組みについて情報共有を行うと共に、「ケイ・オプティコムエコアクション」を毎年策定し、事務所電気使用量削減、車両燃費向上、コピー用紙使用量削減、再生利用コピー紙購入などに取組んでいる。</p> <p>・ICT分野におけるエコロジーガイドライン協議会が定めるガイドラインに則り、電気通信事業者として適切に省エネによるCO2排出削減に取組み、H25年3月よりエコICTマークを取得している。</p>
<p>・電気通信事業用設備においては、利用顧客の収容変更により旧型通信設備の集約・撤去、省エネ型空調設備への置き換えなどに取組んでいる。</p>

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ GHG排出	各オフィス	コード (1126) 一定時間・従業員不在箇所の消灯	従業員不在箇所の消灯について周知を実施。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
2	レ GHG排出	各オフィス	コード (1113) 空調機の運転管理の厳正化	空調機の運転は執務時間内のみとし、延長が必要な場合は管理箇所への申請を必要とする運用を実施。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
3	レ GHG排出	各通信局舎	コード (1126) 一定時間・従業員不在箇所の消灯	従業員不在箇所の消灯について周知を実施。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
4	レ GHG排出	各オフィス	コード (1113) 事務機器類の動作不要時間のOFF励行	従業員に対し執務室最終退出時の事務機器類の電源OFF等を実施するよう社内規定に明記。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
5	レ GHG排出	各オフィス	コード (1113) 従業員に対する環境問題への意識啓発	従業員が利用するPCで起動時に環境問題への取組を推進するメッセージの定期的な掲載	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
6	レ GHG排出	各オフィス	コード (1113) 空調機温度設定についての周知	オフィス内の空調温度の設定見直しについて周知	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
7	レ GHG排出	各オフィス	コード (1112) オフィス電力使用量、車両燃料使用量報告	オフィスにおける各四半期ごとの電力使用量、車両燃料使用量の定期報告を実施。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
8	レ GHG排出	各通信局舎	コード (1216) 省エネルギー型空調設備の採用	省エネルギー型の空調設備への取替え	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
9	レ GHG排出	各通信局舎	コード (1126) 直流電源システムの導入	新設局舎において直流電源システムを導入する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
10	レ GHG排出	各通信局舎	コード (1126) 小規模通信局舎の統廃合	複数の小規模通信局舎の統廃合を行う。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ GHG排出	全箇所	コード (2123) アイドリングストップ等運転時での排出規制	エコドライブやアイドリングストップについて周知を実施。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
9	レ GHG排出	全箇所	コード (2122) 出張時の公共交通	出張について業務上必要な場合のみ自動車を利用するようにしている。	2015 年度 ～

2		通機関の利用促進	2017 年度
---	--	----------	---------

(4)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	東京都千代田区飯田橋3-10-10	氏名	KDD I 株式会社 代表取締役社長 高橋 誠
特定事業者の主たる業種		37通信業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		個人のお客さま向けには「au」ブランドのもと、移動体通信（au携帯電話）事業と固定通信（ブロードバンド・インターネット/電話）事業を展開し、シームレスにつながる新しい通信環境の実現に貢献しています。また、法人のお客さまには、FMCネットワークからデータセンター、アプリケーション、セキュリティ対策まで全てのICT領域でサービスを提供し、ビジネスを強力にサポートしています。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間	2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)
---------	---------------------------------------

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	43,475 t-CO ₂	50,890 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	47,356 t-CO ₂	56,420 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	-79.3 %	-1.4 %	4.8 %
削減率(平準化補正ベース)		-	%	-1.6 %	4.1 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (契約数 au契約数+ブロードバンド契約数)

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>KDD I 大阪第2ビル(平成27年竣工)の本格稼働以降、当該ビルの消費電力は増加しているが、その他のビルについては、消費電力量を抑制することができている。全体の排出量は増加したものの、原単位ベースの評価においては、2%程度の減削となっている。</p>

(2) 推進体制

コーポレート統括本部長を委員長とする「CSR委員会」において方針を策定し、サステナビリティ推進室を中心に策定事項を国内外の関連部門に展開し、部門横断的な活動を行っています。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	福島NC(廃止)	コード (1215) 通信用電源設備の整理	負荷設備がなくなる30KVA UPS設備1台の電源を平成21年度に停止。平成24年度以降も継続して停止する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	全局舎	コード (1215) 通信用電源設備の整理	使用負荷電流が減少し、増設負荷が無い整流器設備において、ユニットの削減及び巻き取りを検討中。平成29年度で完了。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	大阪ビル 大阪第2ビル	コード (1113) 省エネ法に基づく管理標準の順守	①不要時の停止②稼働台数の調整③適正メンテナンスによる効率低減化の防止 ④最大電流の低減化等空調設備、通信設備等の適正稼働	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	大阪ビル	コード (1216) 空調設備の更改 冷却塔の更改	平成21年度に熱回収型ターボ冷凍機1式をチラー型冷凍機へ更改。H26年度冷却塔の更改実施。平成27年度以降も継続して運用する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	大阪第2ビル	コード (1215) 省エネ設備 平成27年度で完了	照明器具のLED化。 平成27年度で完了	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	全局舎	コード (1216) 通信機械室の負荷設備による温度変更	通信機械室は、負荷設備に適したエリア毎の空調温度変更を実施。電力設備室等の温度設定を変更。平成27年度も継続して実施する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	大阪ビル	コード (1218) 省エネ設備	照明器具のインバータ化済み。 85千KWh/年 削減。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	大阪NC(廃止)	コード (1216) A棟空調設備の更改	A棟空調機を更改済み。 1,200千KWh/年 削減。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
9	レ	GHG排出	大阪第2ビル	コード (1215) 電源設備の導入	効率的な電源設備の導入	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
10	レ	GHG排出	大阪NC(廃止)	コード (1215) 直流電源設備の更改	1～3系直流電源設備/4～5系直流電源設備を平成21年度に更改。平成27年度も継続して運用する。 570千KWh/年 削減。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
11	レ	GHG排出	大阪ビル	コード (1216) 給排気設備更改	給排気設備を更改済み。 60千KWh/年 削減。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
12	レ	GHG排出	大阪ビル	コード (1216) 空調用水槽ポンプの更改	冷水槽・温水槽ポンプを更改済み。 60千KWh/年 削減。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
13	レ	GHG排出	大阪ビル	コード (1215) 電力・空調監視設備更改	電力・空調監視設備を平成21年度に更改済み。平成27年度も継続して運用する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
	レ	GHG排出		コード (1215)	4階交流設備の新設、統合を平成22年度に実施	2015 年度

14	レ	人工排熱	千里NC	交流設備新設統合	済み。平成27年度以降も継続して運用する。 74千KWh/年 削減。	～ 2017 年度
	レ	平準化				
15	レ	GHG排出	大阪ビル	コード (1216) 空調等熱源設備 更改	空調等熱源設備の更改。 1,900千KWh/年 削減。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
16	レ	GHG排出	大阪ビル	コード (1216) 空調機更改及び 新設	5階北空調機の更改および新設。 15千KWh/年 削減。 新設工事実施中。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
17	レ	GHG排出	大阪ビル	コード (1216) 空調機更改	B1階電力監視室空調機を平成21年度に更改。平成27年度以降も継続して運用する。 37千KWh/年 削減。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
18	レ	GHG排出	大阪ビル	コード (1218) 太陽光発電シス テムの導入	平成20年度から外灯用電力として太陽光発電システム導入。平成27年度以降も継続して運用する (クリーンエネルギー利用促進:年間29.4t-CO2削減)。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
19	レ	GHG排出	大阪ビル 大阪第2ビル	コード (1113) 空調機運転管理	有人の事務所においてクール・ビズおよびウォームビズを継続実施中。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
20	レ	GHG排出	大阪ビル	コード (1113) エレベーター運 転管理	荷物用大型エレベーター運用効率化による消費電力の削減実施中。平成27年度以降も継続して運用(年間0.506t-CO2削減)。平成23年度から客用エレベーター運行を変更。平成27年度も継続して運用。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
21	レ	GHG排出	大阪ビル	コード (1113) 飲料自販機消灯	飲料自販機のディスプレイ消灯による消費電力の削減実施中(年間6.91t-CO2削減)。平成27年度以降も継続して運用。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
22	レ	GHG排出	大阪ビル	コード (1113) 換気ファン運転 管理	地下駐車場換気ファンの運用見直しによる消費電力の削減を実施中(年間7.810t-CO2削減)。平成27年度以降も継続して運用する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
23	レ	GHG排出	大阪ビル	コード (1218) 照明設備の一部 LED化	1階エントランス、EVホール、トイレ等の照明用管球をハロゲンからLEDに変更。平成27年度以降も継続する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
24	レ	GHG排出	大阪ビル	コード (1113) 冷水用揚水ポン プの運転管理	冷水用揚水ポンプの運用見直しによる消費電力の削減を実施中(年間221t-CO2削減)。平成27年度以降も継続して運用する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	大阪ビル他	コード (2123) エコドライブ及 びアイドリング ストップなど	低燃費車の導入や、エコドライブ及びアイドリングストップを推奨して、運転日誌によるチェックを行っている。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	大阪ビル他	コード (2122) 関西エコオフィ ス宣言	関西エコオフィス宣言 クールビズ、ウォームビズ、節電、節水の励行、自動車利用の抑制(電車通勤の奨励)、紙ごみの削減と再資源化	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
3	レ	GHG排出	全局舎	コード (2199) 天王山森林保全 ボランティア活 動を開催	森林環境保全活動 天王山での森林保全活動	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				

(4)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪市中央区大手前1-7-31	氏名	京阪建物株式会社 取締役社長 三浦達也
特定事業者の主たる業種		69不動産賃貸業・管理業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		不動産賃貸業、展示ホール・会議室の運営、駐車場の経営		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(0)年度
温室効果ガス総排出量	7,635 t-CO ₂	7,892 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	8,435 t-CO ₂	8,722 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2014 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	3.0 %	0.6 %	-3.4 %
削減率(平準化補正ベース)		-	0.6 %	-3.2 %	-2.4 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(共用部面積+入居面積)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>ビルマルチエアコンの導入により、省エネルギー化を図った結果、若干ではあるが、温室効果ガス排出量の削減につながった。</p>
--

(2) 推進体制

省エネ法に基づく管理体制で温室効果ガス排出量の削減に努める。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ GHG排出	OMMビル	コード (1122) 個別空調化の推進	17階フロア整備工事に伴い既存のファンコイルユニットを撤去し、最新のビルマルチエアコンへ更新。平成30年度完了。	2017 年度 ～ 2018 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	GHG排出		コード		年度 ～ 年度
	人工排熱				

(4) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪市中央区大手前1丁目7番31号	氏名	京阪電気鉄道株式会社 代表取締役社長 中野 道夫
特定事業者の主たる業種		80娯楽業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		遊園地 大正元年にこの地で菊人形展を開催したことを起源とするひらかたパークは、長い間「ひらかた大菊人形」などで親しまれてきた。平成7年から「花と緑と水そして光」をコンセプトに大規模なリニューアルを実施、より一層魅力のある施設となった。また、環境マネジメントシステムの国際規格である「ISO14001」の認証を日本の遊園地で初めて取得し、子供たちに夢を与える施設として環境にやさしい事業活動を展開している。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間					
2015年	4月	1日	～	2018年	3月31日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	3,761 t-CO ₂	3,524 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量 (平準化補正後)	4,284 t-CO ₂	4,000 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017年度)	第1年度 (2015年度)	第2年度 (2016年度)	第3年度 (2017年度)
選択	レ	削減率 (排出量ベース)	3.0 %	-1.4 %	-0.7 %
		削減率 (原単位ベース)	%	%	%
削減率 (平準化補正ベース)		-	0.1 %	-0.3 %	6.6 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容 (目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	()
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

本計画の最終年度に6.3%の削減が達成できた。今後も環境に配慮した行動を心掛けながら、照明器具のLED化や空調機器の省エネ型への転換を推し進めていく予定である。
--

(2) 推進体制

平成12年9月に日本の遊園地で初めて取得した「ISO14001」環境マネジメントシステムが要求する、環境に係わる法律や条例を遵守しながら、電気、水、ガス、紙、油脂の使用量の削減を各シーズン終了毎に開催している環境会議において審議推進していく。この体制の継続が、温室効果ガス及び人工排熱の抑制に繋がるものとする。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	ひらかたパーク	コード (1111) 法の順守、関係者全体への周知	環境に係わる法律や条例等を順守するとともに、必要に応じて自主管理基準を設定し、更なる向上を図る。アルバイト従業員等の入れ替わりがあるので、漏れのない効果的な周知を考慮する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
2	レ GHG排出	ひらかたパーク	コード (1113) 閑散時の遊戯機運転	負荷の状況 (入園者数) に応じて稼働 (運転) 台数の調整を続ける。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
3	レ GHG排出	ひらかたパーク	コード (1218) 既設照明のLED化	特に点灯時間の長い照明器具からLED化を押し進める。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
4	レ GHG排出	ひらかたパーク	コード (1199) 夏季電力需要期における遊戯機の停止	夏季日中の電力需要時間帯に、各大型遊戯機を輪番制により1時間程度休止させる。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG排出		コード		年度 ～ 年度
	人工排熱				

(4) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	京都市南区東九条南石田町5番地	氏名	京阪バス株式会社 代表取締役社長 鈴木 一也
特定事業者の主たる業種		43道路旅客運送業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		一般乗合および一般貸切旅客運送事業を行っている。バス保有台数は、全社で628台うち大阪府下に338台を有する。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間	2015年 4月 1日～ 2018年 3月 31日 (3年間)
---------	---------------------------------

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	13,189 t-CO ₂	13,903 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	13,287 t-CO ₂	13,997 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2014 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0 %	-2.6 %	-2.5 %
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	%	-6.1 %	-5.4 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	()
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>運行計画の変更(路線廃止等)により、走行距離は減少したが、燃費効率のいい高速路線の廃止等もあったため、全体としての燃費悪化を招き、温室効果ガスの排出量は増加した。また、大阪府下においてはすでに全車を排ガス規制適合車に代替済みであり、アイドリングストップなどの指導も行っているが、猛暑の影響(エアコン使用)も燃費が向上しない要因である。今後も、低燃費車両への更新や運転技術の向上に努めるが、行政におかれても渋滞の解消など、道路の走行環境改善をお願いしたい。</p>
--

(2) 推進体制

全社的に温暖化対策に取り組むため、環境マネジメントシステムを導入し、管理指導している。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ GHG排出	全ての事業所	コード (1215) エコオフィスの 推進	照明のLED化、冷暖房の適温化等により、電力使用量を削減する。 (全社にて、H29年度実績は、H28年度比 2.2%減)	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ GHG排出	全ての事業所	コード (2123) エコドライブの 推進	アイドリングストップを含むエコ運転の 実施 に取り組む。	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ 人工排熱				
2	レ GHG排出	全ての事業所	コード (2112) 燃料使用量に関 するデータ管理	車両ごとの燃費を毎月算出し、管理している。	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ 人工排熱				
3	レ GHG排出	全ての事業所	コード (2111) 推進体制の整備	全社での環境マネジメントシステムの導入によ り、推進体制を整備・強化している。	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ 人工排熱				
4	レ GHG排出	全ての事業所	コード (2121) バス低燃費車の 導入	バスについて、最新の排ガス規制車を順次導入 することにより燃費の向上を図り、燃料使用量 の削減に努めている。(全社にて628台中6 24台(99.4%)導入)	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ 人工排熱				
5	レ GHG排出	全ての事業所	コード (2114) バスの適正な維 持管理	法定では3ヶ月ごとの整備点検を、自主的に 1.5ヶ月ごとに実施し適正な維持管理に努め ている。	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ 人工排熱				

(4) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府守口市河原町8番3号	氏名	株式会社 京阪百貨店 代表取締役 辻 良介
特定事業者の主たる業種		50各種商品卸売業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		百貨店として、大阪府内に5店の出店を行っている。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2017 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	18,207 t-CO ₂	16,949 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	20,506 t-CO ₂	19,037 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	3.0 %	4.6 %	7.0 %
削減率(平準化補正ベース)		-	4.8 %	4.9 %	7.2 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(賃貸面積)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>平成29年度抑制対策実施状況について産業・業務分野1,6及び自動車分野1を実施した。削減状況については、産業・業務分野で営業時間を一部で1時間早めたことにより削減となった。結果として基準年度と比較して1258t-CO₂の削減となった。</p>

(2) 推進体制

全社的にエネルギー使用量について目的目標を定めて取り組んでいる。問題事項については環境委員会で改善等を検討することとしている。また、守口店・他店ともISO14001に代わる京阪グループ環境マネジメントシステムの運用により、継続的な温暖化対策が行われるようシステムを構築し、平成28年度からの運用開始している。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全店	コード (1111) 京阪グループ環境マネジメントの推進	環境マネジメント (ISO14001) (現京阪グループ環境マネジメント) の内、環境改善計画推進による電気、ガス使用量の削減 (CO2排出量 161t削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	守口店	コード (1218) LEDの採用	スカイビームからLED電球への取替による電気使用量の削減 (550台) (CO2排出量 101t削減)	2015 年度 ～ 2016 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	守口店	コード (1218) 高輝度誘導灯の採用	直管蛍光灯使用の誘導灯を高輝度誘導灯への取替による電気使用量の削減 (710台) (CO2排出量 93 t削減)	2015 年度 ～ 2016 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	くずは店	コード (1218) LEDの採用	パナビームからLED電球への取替による電気使用量削減 (515台) (CO2排出量 79 t削減)	2015 年度 ～ 2016 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	守口店	コード (1215) 高効率インバーターの採用	冷温水ポンプインバーター取付 (CO2排出量 320 t削減)	2015 年度 ～ 2015 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	守口店	コード (5115) 営業時間短縮	営業時間短縮 (3階～6階を20時閉店を19時閉店に変更) (CO2排出量172t削減)	2017 年度 ～ 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全店	コード (2123) 京阪グループ環境マネジメントの推進	環境マネジメント (ISO14001) (現京阪グループ環境マネジメント) の内、環境改善計画推進によるガソリン使用量の削減 (CO2排出量 2t削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				

(4) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪市中央区天満橋京町-1	氏名	株式会社京阪流通システムズ 代表取締役 中島 政人
特定事業者の主たる業種		69不動産賃貸業・管理業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		不動産賃貸業・管理業として、大阪府内にショッピングセンター等の商業施設の経営、プロパティマネジメント事業等を行っている。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間	
2015 年 4 月 1 日～	2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	20,773 t-CO ₂	18,963 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	24,100 t-CO ₂	22,085 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0 %	2.3 %	3.7 %
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	2.7 %	3.2 %	8.4 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	()
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>夏季の空調関連では、熱源のターボ冷凍機や吸収式冷凍機(設置施設ではチラー等)の適切な稼働により効果的な節減を図り、季節の中間期には外気の活用を増やしより効果的な節減を図る。 夜間電力を有効活用して、氷蓄熱機器、蓄熱槽の利用による削減を図り、ナイトページなどを効果的に利用して節電を図る。 繁忙期には特に空調機器の温度管理を細かく行い、間欠運転(ピーク時カットを含め)の実施を行い、電力・ガスの使用量の削減を図る。</p>
<p>またLED照明の採用やダクトや配管の管路系動力にインバーターを採用し省エネを行っている。</p>

(2) 推進体制

推進体制と致しましては、全社的にエネルギー使用量の目標を定めており、達成状況・問題事項については環境会議にて改善策を検討することとしている。当社は京阪グループ環境マネジメントシステムを現在運用中であり、CO2ガス削減に努めております。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	天満橋・京橋 ・くずは	コード (1111) 運用体制の合理化、管理標準の遵守	運用の合理化による消費量の削減	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	天満橋・京橋 ・くずは・高架街	コード (1112) 正確な記録によるデータの把握と管理	データ把握と適正管理の実施	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	天満橋・京橋 ・くずは・高架街	コード (1113) 機器の運転管理	各機器別に最適化を図り、適正に管理する	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	天満橋・京橋 ・くずは・高架街	コード (1114) 適切な保守・点検	点検等を実施し、効率的な保守管理を実施する	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				
5	レ	GHG排出	天満橋・京橋 ・くずは・高架街	コード (1216) 適切な運転等	空調機の適切な運転切替による効率化 吸収式・ターボ、高効率スクリーン冷凍機、 GHPとEHPの効率的かつ効果的な運用	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				
6	レ	GHG排出	天満橋・京橋 ・くずは・高架街	コード (1125) 配電損失の低減	不可の不均一を是正し、配電損失の低減を図る	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				
7	レ	GHG排出	天満橋・くずは	コード (1218) 機器の更新 (新設)	LED照明への切替 (新設) による消費電力の削減	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				
8	レ	GHG排出	くずは	コード (1125) 適切な運転等	大温度差送水による搬送電力の削減、ナイトページによる冷房不可削減	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(4) その他の抑制対策

くずはモールではヒートアイランド対策として屋上や壁面の一部緑地化など環境に配慮した設計・施工を行いました。屋上駐車場の一部に太陽光発電システムを導入し館内電気の一部をまかなったり、氷蓄熱設備による電力の夜間移行やナイトページ実施等による環境に配慮した空調を実施するなど、CO2削減と排出量の抑制を図っています。

電力使用量の削減を行うために、各施設においてバックスペース側の昇降機設備の稼働時間の制限や間引き運転などを行い、通路照明の間引きやスイッチの人感センサー化、キャノピースイッチ式等による節電等を行いました。また、既存の空調機設備の運転プログラムの細分化等を実施し、夏季・冬季の温度設定を細かに行い機器運転稼働率の削減を図り、またGHP、ガス吸収式などの非電力空調機の優先稼働などによるピークカットも行っています。

最新設備のくずは南館、本館増床部分では、高効率スクリー式冷凍機やGHP空調機の採用によるピーク時の電力抑制に貢献できるほか、くずはモール全館の照明設備をLED化したことによる節電効果、その他のSC施設でも照明設備の更新に合わせてLED化を行っており、今後は更なる削減が期待できる。

実績報告書

		大阪市中央区城見1丁目2番27号 クリスタルタワー13階		ケイミュー株式会社 代表取締役社長 木村 均
届出者		住所	氏名	
特定事業者の主たる業種		21窯業・土石製品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に、屋根材及び外壁材の製造・販売を行っており、全国に40営業拠点と製造事業所として7工場があり、大阪府内では、本社、近畿営業部及び堺工場が事業を行っている。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間					
2015年	4月	1日	～	2018年	3月31日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	27,030 t-CO ₂	31,437 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	28,321 t-CO ₂	32,932 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017年度)	第1年度 (2015年度)	第2年度 (2016年度)	第3年度 (2017年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	3.0%	-1.1%	6.0%
削減率(平準化補正ベース)		-	%	-1.1%	-2.0%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値(堺工場の外壁材の生産量)

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>H29年度は、原単位前年度比で電気7%良化、ガス9%良化しました。これは、堺工場がH28年度～H29年度の間、生産能力アップのための投資を行ったことで、生産効率が向上したこと、及び、販売好調に伴う増産で稼働率が高かったことが良化の要因です。基準年度からの温室効果ガス削減も上記要因により、目標の3%をクリアしました。</p>

(2) 推進体制

<ul style="list-style-type: none"> ・全製造事業所でISO14001を認証取得しており、製造事業所をベースとして全社的な環境マネジメントシステムを構築し、温暖化対策方針を各事業所で具体化しCO2削減を推進。 ・製造事業所においては、事業所毎の組織で省エネ活動を継続し、製造条件変更等をとまなう対策については、研究開発部門の支援を受け、品質に問題が無いことを確認しながら推進する。
--

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	堺工場	コード (1299) エア漏れ修理によるコンプレッサー効率化	エア漏れの修理 (コンプレッサー電力量 40.4kwh/年低減) (H27年度21.1t-co2を削減した)	2015 年度
	レ	人工排熱				～
		平準化				2017 年度
2	レ	GHG排出	堺工場	コード (1218) 高効率場内灯の導入	水銀灯 2 6 9 灯をLED照明に更新した (H29年度11.1t-co2を削減した)	2015 年度
	レ	人工排熱				～
		平準化				2017 年度
3	レ	GHG排出	堺工場	コード (1212) ハイグロマスター導入	工場エアのドライヤーを現在の冷凍式からハイグロマスターによるクーリングタワー式に変更することで、昼間に冷やしすぎていた電力ロスを減らす。(H31年度以降で計画する)	2017 年度
	レ	人工排熱				～
		平準化				2017 年度
4	レ	GHG排出	堺工場	コード (1199) 2号塗装前ブロー集塵機の統合	1 1 k w の2号塗装前ブロー集塵機を停止し、2号加工ライン集塵機に統合する。(H29年度 21.7t-co2を削減)	2017 年度
	レ	人工排熱				～
		平準化				2017 年度
5	レ	GHG排出	堺工場	コード (1199) エアネック設備の改善によりエア元圧の低減	4. 3→4. 2 kgf/cm2に下げる (元圧低減テストし実施困難だったため中止)	2016 年度
	レ	人工排熱				～
		平準化				2016 年度
6	レ	GHG排出	堺工場	コード (1121) 基材乾燥空気比の改善	バーナー空気比が2以上のバーナーの燃焼ファンを下げ、下げた分だけ排気ファンを下げることで熱排出の削減 (制御システムの設計が困難でペンディング中)	2015 年度
	レ	人工排熱				～
		平準化				2016 年度
7	レ	GHG排出	堺工場	コード (1113) オートクレープスイング条件柄別設定	オートクレープ養生工程の昇圧スイング幅を、柄別に品質を確認しながら小さくして蒸気削減 (品種構成の変化により中止)	2016 年度
	レ	人工排熱				～
		平準化				2017 年度
8	レ	GHG排出	堺工場	コード (1199) 生産性向上	生産能力を上げることで、エネルギー原単位を低減する。(H28年度～H29年度で設備能力の向上工事実施、750t-co2を削減)	2016 年度
	レ	人工排熱				～
		平準化				2018 年度
9		GHG排出	堺工場	コード (5999) 夏季昼間ピーク電力低減	7月～9月の平日13時～16時の間、ピークカット (契約) することにより夏季昼間電力使用量の低減を図る。生産性が向上したH29年度より生産計画に余力がある月毎に実施予定。	2017 年度
	レ	人工排熱				～
		平準化				2017 年度

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2123) エコドライブの実施	通勤バス1台、社用車31台のエコドライブの推進	2015 年度
	レ	人工排熱				～
						2017 年度

(4) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪市天王寺区10番31号	氏名	医療法人警和会 大阪警察病院 理事長 越智 隆弘
特定事業者の主たる業種		83医療業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		病院、 許可入院病床580床、診療科25科		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間	2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)
---------	---------------------------------------

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	7,705 t-CO ₂	7,618 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	8,398 t-CO ₂	8,199 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	5.0 %	2.5 %	3.7 %
削減率(平準化補正ベース)		-	3.8 %	5.0 %	1.5 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(事業収益)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>OP室増加や放射線CT、MRIの更新で電力負荷が増える中、照明をLEDに変更する事でベース電力約6%の省エネが実現出来ている。原単位の事業収益は、薬価収益等の病院独自の複雑なシステム状下になっているが、実質はプラスである。電気需要の平準化対策は病院の性質上 昼間電力の負荷移動は困難なので、大規模熱源改修時にはトップランナー機器の導入を考えている。</p>

(2) 推進体制

ESCO事業が10年目になりますが、事業の一環でCGS発電機にて平準化対策のピークカットを行っています。また、エコ隊メンバーを各部各詰所から募り、エネルギーの使用状況などを説明しエコ運動を継続的に実施して、職員全体のECO意識を持続させることにより省エネに繋がりたい。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	大阪警察病院	コード (1218) 高効率照明器具の導入	各所LED照明器具改修工事 300台 40W ×300台×15時間×365日→29.57 tCO2 省エネ率40%=18 tCO2	2015 年度 ～ 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	大阪警察病院	コード (1216) 空調FCUファン及びモータ交換整備	空調FCUのモーターファン交換整備による効率化 200台 30W×200台×20時間×300日→16.2 tCO2 30%効率 Up=5.0 tCO2	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	大阪警察病院	コード (1216) 講堂用PAC更新工事 高効率EHP 講堂用空調機 高効率EHP化工事	3Kw×10時間×300日→4.05 tCO2	2017 年度 ～ 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	大阪警察病院	コード (1216) VIP系チラー冷凍機の更新	VIP系チラー冷凍機更新工事 セントラルチラーから各部屋高効率エアコンに更新 3KWH×24時間×365日=11.8 tCO2	2017 年度 ～ 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	大阪警察病院	コード (1216) 各空調エアコン経年劣化による更新工事高効率エアコン更新20台	各空調エアコン経年劣化による更新工事高効率エアコン更新20台	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	大阪警察病院	コード (1124) ボイラーの効率化	蒸気トラップの多量トラップ交換	2016 年度 ～ 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	大阪警察病院	コード (1218) 高効率照明器具の導入	各所LED照明器具改修工事 700台 40W ×700台×15時間×365日→29.57 tCO2 省エネ率40%=32.2 tCO2	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	大阪警察病院	コード (1218) 講堂照明LED化	講堂照明LED化 40台×3本計120本	2017 年度 ～ 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
9	レ	GHG排出	北大阪警察病院	コード (1216) 外来空調機更新	外来ヒートポンプチラー更新	2016 年度 ～ 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
10	レ	GHG排出	北大阪警察病院	コード (1216) 故障箇所エアコン高効率化	各空調エアコン経年劣化による更新工事高効率エアコン更新10台	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(4) その他の抑制対策

--

実績報告書

届出者	住所	大阪市中央区本町橋1-20	氏名	株式会社ケーエスケー 代表取締役社長 岡本 総一郎
特定事業者の主たる業種		55 その他の卸売業		
該当する特定事業者の要件		大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者 レ 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者		
事業の概要		医薬品、医薬部外品、試薬、農薬、防疫用薬剤及び資材、工業用薬品、理化学用薬品、動物用医薬品、劇毒物、塗料、顔料、染料及びその他各種薬品医療機器等の販売を行っている。全国では支社・支店・営業所が39か所あり、うち大阪府内では10か所である。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間					
2015年	4月	1日	～	2018年	3月31日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	3,060 t-CO ₂	1,784 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量 (平準化補正後)	3,263 t-CO ₂	1,992 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017年度)	第1年度 (2015年度)	第2年度 (2016年度)	第3年度 (2017年度)
選択	レ	削減率 (排出量ベース)	4.0 %	18.1 %	37.1 %
		削減率 (原単位ベース)	%	%	%
削減率 (平準化補正ベース)		-	16.8 %	33.6 %	39.0 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容 (目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

自動車エネルギー使用量については、余剰車の削減や車載器のデータを用いたエコドライブの徹底、エコカー導入、カーシェアリングの導入、走行ルートの見直し、配送業務の外部委託を一部採用した為。一般電気使用については、社内通達にて使用削減の啓蒙を行い、進捗状況お報告し現状改善について検討。建物建築時は省エネを意識した設備 (LED、人感センサー等) を導入した。

(2) 推進体制

全社的に温暖化対策に取り組むため、実態報告や改善について会議等で検討するとともに削減への取り組みを継続してまいります。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全事業所	コード (1112) 冷暖房の温度設定を最適に行えるよう運転制御・管理システムの運用改善	冷暖房の温度設定を最適に行えるよう運転制御・管理システムを運用する。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	全事業所	コード (1215) 冷凍・冷蔵庫の導入	省エネ効果の高い冷凍・冷蔵設備に更新する。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	全事業所	コード (1218) 照明設備の導入	省エネ効果の高い照明設備 (HF蛍光灯) に更新する。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	全事業所	コード (1215) デマンド監視システムの導入	デマンド監視システムを導入し、ピークカットを実施する。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全事業所	コード (2121) 低燃費の導入	自動車の更新時にトップランナー燃費基準達成車を積極的に導入する。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	全事業所	コード (2123) エコドライブの推進	全車がエコドライブを実施する。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
3	レ	GHG排出	全事業所	コード (2226) 荷物の軽減・配送ルートの確立	計画的な配送業務に努める。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
4	レ	GHG排出	全事業所	コード (2114) 適正な維持管理	日常点検、法定点検の確実な実施により良好な車両状態を保つ。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
5	レ	GHG排出	全事業所	コード (2122) 公共交通機関の利用促進	カーシェアを実施し、地下鉄やバス等公共機関及び自転車の利用を促進する。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
6	レ	GHG排出	全事業所	コード (2226) 燃費向上	車載器の導入による急ハンドル・急減速・急加速・アイドリングの抑制。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				

(4) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪市北区梅田3-3-30	氏名	健康保険組合連合会 大阪中央病院 院長 大橋秀一
特定事業者の主たる業種		83医療業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		一般病院		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間					
2015年	4月	1日	～	2018年	3月31日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	3,229 t-CO ₂	3,043 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	3,535 t-CO ₂	3,306 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017年度)	第1年度 (2015年度)	第2年度 (2016年度)	第3年度 (2017年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0%	3.1%	2.9%
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	3.8%	3.8%	6.5%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	()
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>第1年度は空調熱源改修による省エネ運転、第2,3年度は、全台数の約半分弱のパッケージエアコンを省エネ型へ更新した結果、削減目標3%を超える5.8%と大幅な削減に成功した。今後もエネルギー消費量削減に努める。</p>
--

(2) 推進体制

平成27年7月に熱源設備性能検証プロジェクトを立ち上げ、月一回ペースで熱源性能検証会議を開催し、対策の進捗状況を報告、現状改善に努め省エネに取り組んでまいりましたが、成果もできましたので、平成28年3月にプロジェクトチームを解散しました。今後は性能検証会議にて取得した技術で更に省エネに努める。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	大阪中央病院	コード (1122) 熱源運転制御の改善	27年度に空調熱源システムの搬送動力最適化制御を導入し、検証プロジェクトチームと立上げ検証、改善を実施した。(年間65t-CO2削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	大阪中央病院	コード (1122) インバータ制御の導入	空調熱源システム改修により、熱源二次ポンプを運転せずに余剰圧活用にて流量確保の検討した結果、インバータ導入より省エネ効果が高い為、取りやめとする。(年間15t-CO2削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	大阪中央病院	コード (1218) 照明設備の導入	照明設備全体の15%をLEDへ更新実施。順次更新予定。(年間120t-CO2削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	大阪中央病院	コード (1215) パッケージエアコンの導入	省エネ型パッケージエアコン52台更新実施し今夏デマンド抑制につながった。今後も重要ヶ所より順次更新予定。(年間20t-CO2削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	大阪中央病院	コード (1125) 蒸気バルブの保温	蒸気バルブを保温する。(年間30t-CO2削減) 29年度は成果再検討中	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(4) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府泉南郡 熊取町朝代西1丁目950番地	氏名	原子燃料工業株式会社 熊取事業所長 伊藤 義章
特定事業者の主たる業種		23非鉄金属製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		核燃料製造及び電子線照射サービス		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(2014)年度	前年度(2017)年度
温室効果ガス総排出量	3,238 t-CO ₂	4,205 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	3,548 t-CO ₂	4,690 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	3.1 %	0.4 %	-13.2 %
削減率(平準化補正ベース)		-	%	-1.3 %	-14.8 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (ウラン生産量及び等価ウラン生産量)

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

基幹事業であるウラン生産量と、その他事業の売上高をウラン製造単価で除した値を等価ウラン生産量とし、それらを足したものを温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値とした。

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

ウラン燃料製造に使用する焼結炉(電気炉)は一旦降温すると、必要な温度まで昇温するのに約10日程必要となる。平成29年度は生産工程の都合上、降温せずに温度を維持する必要があるため、生産していないが焼結炉(電気炉)を稼働させていた期間が生じた。そのため、ウラン燃料生産量に対し温室効果ガス排出量が多くなり削減に至ることができませんでした。

(2) 推進体制

節電推進委員を選任し、空調温度の管理強化、照明の間引き・消灯の徹底などを推進している。また、大容量負荷の運転については節電推進委員又は電気主任技術者に連絡し、デマンド電力を確認しながらできるだけ平日昼間を避けて稼働させることとしている。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	熊取事業所	コード (1218) 照明器具の高効率化	高効率の照明器具に更新していく。(20t-CO2を削減) ⇒H28年度は計7台実施済み ⇒H29年度は計51台実施済み	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	熊取事業所	コード (1216) 空調機の高効率化	高効率の空調機に更新していく。(60t-CO2を削減) ⇒H28年度は計2台実施済み ⇒H29年度は計3台実施済み	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	熊取事業所	コード (1113) 温度管理	冷暖房の温度を国の目標温度で管理することの徹底。(10t-CO2を削減) ⇒H28年度実施済み ⇒H29年度実施済み	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	熊取事業所	コード (1113) 不要時の消灯	不要な照明を消すことの徹底。(昼休み、会議室) (2t-CO2) ⇒H28年度実施済み ⇒H29年度実施済み	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				
5		GHG排出	熊取事業所	コード (5121) 運転時間のシフト	高負荷設備(流水試験装置)の運転時間を夜間・休日にずらす ⇒H28年度実施済み ⇒H29年度実施済み	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	熊取事業所	コード (1113) 運転停止	生産が無いときは工場建屋を閉鎖することにより、建屋への電源等ユーティリティの供給を遮断する。 ⇒H28年度実施済み ⇒H29年度は工場閉鎖なし	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	熊取事業所	コード (2121) 低燃費車の導入	低燃費車を導入する。 ⇒導入実績なし。	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
2	レ	GHG排出	熊取事業所	コード (2123) エコドライブの推進	アイドリングストップを推進する。 ⇒H28年度実施済み ⇒H29年度実施済み	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				

(4) その他の抑制対策
